

男はつらいよ寅次郎と殿様

観賞日 2019・7・22

【概要】

制作 1977年 松竹
原作 山田洋次
監督 山田洋次
音楽 山本直純
撮影 高羽哲夫
出演 渥美清（車寅次郎）、倍賞千恵子（さくら）
真野響子（堤鞠子）、嵐寛寿郎（殿様）
三木のり平（執事）

上映時間 99分



【あらすじ】

久々、故郷の葛飾柴又に帰ってきた寅さん。またしてもとらやの面々と衝突、あわただしく旅に出る。愛媛県大洲。同宿の若い女性を気遣い励ます寅さん。たった1枚しかない500円札を風に飛ばされ、寅さんはそれを拾った奇妙な老人に招かれる。老人は伊予五万石大洲藩の十六代当主で世が世ならば殿様になる人。寅さんは殿様から亡くなった末息子の嫁、鞠子の捜索を頼まれる。

上京してとらやにやって来た殿様は、寅さんに捜索を念押しする。翌日から寅さんは鞠子探しに奔走するがたった一日で断念。逃げ出そうとした矢先に、大洲で親切にした若い女性がとらやを訪ねてくる。話しているうち、この女性こそ殿様が探していた鞠子であることが判明し、早速殿様に連絡。殿様は鞠子を一目見て寅さんに感謝する。

やがて、大洲から殿様の手紙が来る。殿様は寅さんへの感謝と、鞠子と寅さんが大洲に来て結婚することを望んでいるらしい。すっかりその気になった寅さんに鞠子が告げたことは・・・。

笑って泣かせる人情喜劇。今回は浮世離れした殿様と寅さんとの掛け合いが絶妙。

【解説】

■ポイント

●シリーズ第19作

- ・ロケ地：愛媛県大洲市、松山市
- ・マドンナ：真野響子
- ・ゲスト：嵐寛寿郎、三木のり平

●嵐寛寿郎（1902年～1980年）

戦前・戦後に活躍した時代劇の大スター。鞍馬天狗が当たり役でアラカンの愛称で親しまれた。本作は、嵐寛寿郎のゲスト出演で、男はつらいよシリーズでは珍しく時代劇調の展開となった。

●大洲藩

- ・現在の愛媛県大洲市を中心とした藩。藩庁は大洲城。支藩として新谷藩があった。
- ・藩主 藤堂家・1代（?～1608年）
脇坂家・2代（1608年～1617年）：外様・5万3千石
加藤家・13代（1617年～1871年）：外様・6万石



■見どころ

●殿様と鞠子の関係

山田洋次が敬愛する小津安二郎の名作「東京物語」の笠智衆と原節子の関係と同じ。
（父親と亡くなった末の息子の嫁。血のつながらない親子）